

編集部 = 竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三 knziid@gmail.com 090-6665-3750

## トピックス コロナ禍で休会相次ぐ

今号は4頁

○12月は今後全部会で予定していた活動を中止。14期生臨時講座も休講となりました。

○講座終了の会員皆様には来年度の「部会加入案内・加入申込書」を発送。2月26日までにご返信願います。

## 十人十色ひろば 今回は、14期スタッフの中務さん。 暖かい鹿児島への紀行です

### 中務佐代子さん（12期生／14期講座スタッフ）

皆様こんにちは。 私は最近訪ねた鹿児島旅行についてお話しします。友達と指宿の「砂むし温泉」を体験しよう！ということになり、JRの「どこでもドアきっぷ」を利用しての新幹線旅。

初日は霧島神宮を参拝し坂本龍馬も訪れたという霧島温泉のお湯でまったり。2日目指宿での砂むし温泉体験です。専用の浴衣に着替え、天然温泉で暖められた砂の上に仰向けになり砂をかけてもらう。砂の重みと下からくる独特の熱さで体中がじわじわと熱くなってくる。大量の汗をかくと老廃物を体の外に排出効果があるそうですが、10分でギブアップ。

専用の露天風呂で砂を落として別の階の温泉ですっきり。2日も温泉につかりお肌ツルツル?心も癒され満足な旅となりました。



仙巖園からの桜島



かわいい指宿駅

編集部 講座スタッフの方々には、平常時は毎週の講座などで旅行をするにも制約がある様です。コロナでの講座休止は**休暇のプレゼント**になったのかも知れません。

## しぜん訪ねて 今回は山歩きです 学能堂（がくのどう）山についてYYさんより

学能堂山を知っていますか。高見山や三峰山は、山好きなら誰でも知っている霧氷で有名な山である。三峰山の隣（三重県側）にある山が学能堂山である。訪れる人が少ない山で、10月に登ったが、晴天なのに誰にも合わず、鹿の鳴き声を聞いただけである。頂上は、三峰山がある奈良県御杖村と三重県美杉町にまたがっている。標高は、1021mで金剛山より少し低いが、この山は、**山頂が草原で360度のパノラマ展望**が出来る。三重県側から登ったが、途中までは杉や桧の美林の間の林道を進み、その後には沢伝いの道が続き、標高600m付近から900mまでは急登となり、一気に尾根筋に出る。この山道で**センブリ**が沢山咲いていた。子供の頃は、近くの野山で普通に見られた花であるが、最近では見かけることが少なくなった。



センブリ



頂上からの眺め  
正面の▲は尼ヶ岳

「しぜん訪ねて」のテーマで山歩きを書いたが、それは人の手で整備した道を歩いているのであり、自然のままの道を歩いているのではない。自然のままでは、道は無くなり、歩くことが難しい。今年はコロナのため登山道の整備が十分に出来ていない山が多く、夏に登った**百合が岳**では、登山道が夏草で腰の高さまで覆われ、GPSを頼りに進むが、道自体がわからなくなり、途中で引き返した。**地元の方々、山の会の皆さんのお蔭で山歩きを楽しませて頂いていることを痛感した。**

コセングサと  
マツグロヒョウモン



今回は花と戯れる昆虫の写真をお届けしたいと思います。  
いつも散歩している加賀田川周辺で見つけた昆虫たち。何れも明るい太陽のもと、10月に撮った写真です。  
蜜と花粉が縁結びして、花と昆虫は切っても切れない仲ですね。

オオハナアブ、名前は「アブ」でも分類的には「ハエ」。サナギが環状に開くのがハエ。縦に開くのがアブ。なのでハエの仲間だそうです。紛らわしいですね。

ダリアと  
オオハナアブ



コロナ禍で各部会が中止となりさみしい限りです。  
また、寒くなると昆虫の姿がめっきり減ります。

ススキの穂と  
ヤマトシジミ

コセングサと  
モンシロチョウ



ヒガンバナと  
キタテハ



ミソソバと  
クマバチ

## 野の花このごろ

今回は 植物の種と散布戦略 について MKさんより

夏から秋に花を咲かせた草木は、秋の終わりには実や種を付け、それを遠く、広く散布するためにいろいろな作戦を取ります。樹木は木の実を付け、鳥や小動物の食による動物散布が多いですが、実をつけない野草は種子を散布するためにどういう戦略をとるのでしょうか。

ススキの小穂

一番多い方法は風を利用することで、タンポポやススキのようにキク科やイネ科の仲間は綿毛のできたパラシュートを付け、風を受けて種を空中に飛ばします。キンポウゲ科のセンニンソウやボタンヅルも散布の頃を迎えると羽毛状の羽飾りを付け、ふわりと風に乗せます。センニンソウの羽飾りは特に長く、仙人の白髭にたとえたことからその名が。また種に翼を付けグライダーかブーメランのように風を受け飛ばすのはウバユリやイタドリ、ヤマノイモの仲間です。別の作戦を採るのは種子に刺やフックを付け動物等にひっかけてヒッチハイクのように運ばせるイノコヅチ、キンミズヒキ、ヌスビトハギ、ミズタマソウ、ヤエムグラ、メナモミ、ヤブタバコ、ノブキ、オオオナモミ、コセングサのひっつき虫と呼ばれる野草達。また鞘等が弾けて種を自発的に飛ばすのはツリフネソウ、カラスノエンドウ、ゲンノショウコ、ハウセンカ、

センニンソウの羽根飾り

スマレ、タネツケバナ、カタバミです。ゲンノショウコはその弾けた跡の形からミコシグサとも。

その他にも種子にエライオソームを付けて蟻に運ばせるクサノオウ、タケニグサ、ホトケノザ、カタクリや、水を利用するヤマネコノメソウ、コチャルメルソウもあります。これら野草の種散布方法をじっくり観察するのもおもしろそうですね。

ゲンノショウコ  
種が弾けた後(ミコシグサ)

ウバユリの種



野山を歩いた後で衣服にくっついてくる厄介な草の実、ひっつき虫とはどのようなものなのでしょうか。

植物は子孫を広範囲に残すために、様々な方法で種を運びます。種の運ばれ方には、植物自身の動きで飛ばす(自動散布)、風に運ばれる(風散布)、雨や川に運ばれる(水散布)、動物に食べられたり、毛皮や羽根に着いて運ばれる(動物散布)等があります。動物の毛や衣服にくっついて運ばれる種がひっつき虫です。

では、どのようにくっつくのでしょうか？

くっつく仕組みも植物により様々。先が丸まったかぎ爪型(オナモミ・ヌスビトハギ等)の、かぎタイプ、先端の逆さとげがある(センダングサ等)、とげタイプ、粘液がある(チヂミザサ等)の、べたべたタイプがあります。



野鳥このごろ

今回は水辺の冬鳥

MKさんのレポートです

この季節、水辺にはカモのほかにも多くの水鳥たちがやってきます。近くの池や川で一番よく目にするのはオオバンで、時にはカモを上回る程の大きな集団で泳ぎ回っています。人が寄って行くと向こうから近付いてきたりもする人慣れした鳥で、夏期は本州中部以北で繁殖し、冬期は中部以西に移動します。近畿では冬にしか見ることがないため、カモと同じように冬の渡り鳥と思われるようですがクイナの仲間で漂鳥です。同じ仲間のバンは留鳥でヒクイナは夏鳥ですので、季節によってクイナの仲間の出番が変わることになります。バンやオオバンには水かきは有りませんが太くて大きな脚と指を持ち泳ぎは上手く、同じような脚をもつクイナは泳がず水辺を歩くだけです。



留鳥のカイツブリに混じって泳いでいるのが冬鳥の首の長いカムムリカイツブリやハジロカイツブリで、水中に潜って小魚を捕まえますので、水面を出たり入ったり忙しい鳥達です。またカモメの仲間も冬鳥で、淀川や大和川河口付近ではユリカモメが集団で飛び交い小魚を狙っていますが、これは冬の風物詩になっていますね。そして大阪湾や河口ではカモメやセグロカモメが飛んでいます。

琵琶湖まで行けば、冬鳥を代表するカモ科のオオハクチョウ、コハクチョウ、マガン、コクガン、ヒシクイやアビ科のアビ、オオハムを観ることができます。湖北はこれらの水鳥とオオワシを含む多くのタカ科の鳥に出会える冬一番の探鳥地にもなっていますので、一度訪れてみるのも楽しいですよ。





♪たきびだ たきびだ 落ち葉たき  
あたらうか あたらうよ♪

先月は異常に暖かい日がありましたが、12月になるとさすがに寒くなりました。火が恋しくなる季節です。里山の楽しみに「焚火=野焼き」があります。街の中では禁じられていますが、人家から離れた里山では、かき集めた枯木、枯れ草を遠慮なく燃やします。

**燃える炎、立ち上がる煙を見ると、なぜか心が安らぎます。**

そして、焚火の楽しみのもう一つは、**九里四里（クリより）旨い十三里の焼き芋**です。



ホックホク出来上がり～

収穫後一か月ほど熟成させたサツマイモを湿った新聞紙で包み、その上からアルミホイルで包みます。これを焚火の積もった灰の上にそーっと置き、その上で枯れ草を少しずつ燃やします。待つこと40分、出来上がり。

**見て下さい！このホックホクの焼き芋を！**

冬の作業は暖が欲しい日もあります。そのため「焚火缶」を作りました。缶の下部に通気口を空け、バーベキュー用の網を火床として入れた、簡単なものです。使ってみると、用済みの竹、枯木などの炎が暖かく、きれいです。

いよいよ年の瀬。年末は、里山で焚火を楽しみながらコロナをやり過ごします。



焚き火缶

**コロナ済んだら行きたいな！**

「けん」の旅日記 ⑦ 12月 新潟／ハクチョウ

野鳥初心者の私は「ハクチョウが見たいなあ～！」と新潟に飛びました。ところが、です。名高い瓢湖ではカモやハクチョウがウジャウジャと重なり合い、想像していた「白鳥の湖」のイメージと違います。**多すぎる！**のです。

**オオヒシクイ**の飛来地として有名な**福島潟**には、鳥たちは沢山いますが、こちらは池が広すぎて探すのが大変です。

そんな中、宿に向かう途中、ついでに立ち寄ったノーマークの**お幕場公園大池（村上市）**が**イメージにピッタリで最高**でした。大泉緑地の大池より一回り小さい池には、赤松林の雪景色を背景に多くのカモ類やハクチョウがくつろぎ、訪れる人はほとんどいません。



瓢湖



お幕場公園大池

水辺に佇むと、カモ達はとりあえず様子見に近づいて来たものの、以降はこちらを無視。

「鳥に無視される」ってなんて心地良いのでしょうか。**池を囲む杭にでもなってしまった**ような安らかな気持ちなのです。

鳥たちは動き回るし、ときに喋っていますし、そこそこ賑やかなのですが、冬場の「自然の華やぎ」に思えます。

身体の芯に寒気が浸み込むまで、心地よく佇んで居れるのでした。

宿がまた秀逸でした。関川村・鷹ノ巣温泉には、清流にかかる雪のつり橋の先に部屋数が十にも満たない小宿が二軒あり、**喜久屋**は奥の方。万事に行き届き、春先に採れる地元の山菜を独自の方法で保存して年中供される山菜料理がとても美味しい。つきっきりで給仕して下さった**仲居さん**が又、**素晴らしかったなあ・・・**

今どき珍しい、リンゴのような紅いホッペをなされた若い方。ポツポツと話される言葉の**越後訛りに心がほっこり**してきて、地酒のホロ酔いととも、至福の夜は更けゆくのでした。